

## 令和3年度 かいせい東川 事業計画書

### 1 事業体制の見直し

当法人ではこれまで、「かいせい東川」と「オリーブ」という2つの就労継続支援B型事業を運営してきた。オリーブは生活介護「ふっと」と同じ多機能型事業所として一体的に運営をしてきたが、現在では人員、建物、設備とも両施設で独立しており、多機能型のメリットが活かされていない。むしろ、授産事業という面でかいせい東川とオリーブの方が普段からパンや菓子の販売で連携を図っており、この両者の運営を一体化した方が効率的かつ効果的な利用者支援を見込める。

そのため、令和3年度から事業体制の見直しを行う。具体的には、オリーブをかいせい東川の従たる事業所と位置づけ、人員や会計を一本化して相互の連携を深めることで、利用者支援を充実させる。

### 2 利用定員 40名 (就労継続支援事業B型)

主たる事業所「かいせい東川」30名+従たる事業所「オリーブ」10名

### 3 職員定数 施設長1名、支援課長2名(支援員と兼務)、主任1名(兼務)、

サービス管理責任者1名(兼務。年度内に1名増員)、

支援員10名(常勤5名、非常勤5名) ※うち常勤1名は従たる事業所専属

### 4 事業運営基本計画(方針)

障がいのある人たちが、住み慣れた地域で作業や生活ができるよう、それぞれの能力に応じた支援計画を作成し支援するとともに、利用者の個性や障がい特性を尊重した施設運営に努めていく。

### 5 今年度の重点目標

- ・かいせい東川とオリーブでの連携を深め、職員の協力体制、授産事業の連携などを深める。
- ・作業の工程や支援の方法などを職員間で改めて確認、統一し、利用者支援の充実を図る。
- ・食品衛生管理や食品表示などの法改正に対応し、より安全な商品づくりを心がける。

### 6 利用者への支援

#### (1) 作業支援

個々の支援計画を基に、作業工程の細分化、補助具等を利用し、利用者個々の能力を引き出し、労働の対価として工賃を得ることの喜びが持てるよう支援する。

#### (2) 生活支援、健康管理

利用者個々の心身の健康状態を把握するとともに、年数回の行事やレクリエーション等も取り入れる。また、地域で生活を送る上で必要な社会的一般常識やマナー習得の支援を行う。

#### (3) 環境の整備

施設内外の美化と整理整頓に努め、作業の効率化や危険防止に留意する。

## 7 生産活動内容

- ・パンの製造、販売
- ・焼き菓子の製造、販売
- ・クッキーの製造、販売
- ・「パンの店オリーブ」の運営

### <重点目標>

- ・新型コロナウイルスの影響で当該年度もイベントや販売先の減少が見込まれるため、季節商品の販売や、注文販売の拡大などを検討する。
- ・品質保持と安定した製品の供給
- ・新商品、関連商品の開発

## 8 防災計画

防災計画を見直すとともに、避難訓練等を年2回実施する。

## 9 感染予防対策

感染予防対策の徹底と、衛生用品の備蓄。研修の実施や、マニュアルの整備。

## 10 開所日・利用時間

平日 9:00～16:00 休所日: 土日祝、年末年始、開所記念日

## 11 行事

健康診断（利用者・職員）、レクリエーション、自治会活動（年2回程度）

## 12 実習生・ボランティアの受入れ

学校や地域からの要望があれば、実習生やボランティアを受け入れる。

## 13 職員研修

施設の適正な運営を図るため職員の資質の向上に努め、支援技術、権利擁護、防災、感染予防、事故防止など必要な研修を実施する。

## 14 資金計画

通常の運営経費は訓練等給付費収入でまかなう。

# 令和3年度 ふっと 事業計画書

## 1 事業体制の見直し

当事業所はこれまで、多機能型事業所として就労継続支援B型事業「オリーブ」と共に一体的に運営をしてきた。しかしながら、現在では人員、建物、設備とも両施設で独立しており、多機能型のメリットが活かされていない。そのため、令和3年度からオリーブはかいせい東川と一体化し、「ふっと」は多機能型を廃止し、生活介護単独の事業所へと変更する。

## 2 利用定員 60名（生活介護）

従来は定員70名であったが、実状に合わせて定員数を削減する。

## 3 職員定数 施設長1名、支援課長1名（支援員と兼務）、主任1名（兼務）、サービス管理責任者1名（兼務。年度内に1名増員）、支援員11名（常勤6名、非常勤5名）看護職員3名（非常勤）、嘱託医1名

## 4 事業運営基本計画（方針）

障がいのある人たちが、住み慣れた地域で活動や生活ができるよう、それぞれの能力に応じた支援計画を作成し支援するとともに、利用者の個性や障がい特性を尊重した施設運営に努めていく。

## 5 重点目標

- ・創作活動やレクリエーション活動などにおいて、利用者一人ひとりの希望や個性をより発揮できるように、プログラムや支援の内容を工夫し、改善していく。
- ・作業班では、利用者の適性や希望に合わせた生産活動を行い、一人ひとりの能力を活かしていく。
- ・権利擁護、防災、感染予防など、利用者の安全や安心に対する取り組みを進める。

## 6 利用者への支援

### （1）活動班における創作活動・生活支援

利用者が地域でより豊かな生活を送るため、創作活動・レクリエーション・日常生活等に重点を置き、個別支援計画を作成しそれに基づき継続的に支援する。

### （2）作業班における作業支援

個別支援計画を基に、作業工程の細分化、補助具等を利用し、作業班に属する利用者一人ひとりの能力を引き出せるよう支援する。

### （3）環境の整備

施設内外の美化と整理整頓に努め、活動や作業の効率化や危険防止に留意する。

## 7 活動内容

創作活動（アート、音楽）：活動に対して意欲を持てるよう発表の場なども設ける。

レクリエーション：個々の希望に応じた活動を用意し、楽しく日中生活を送れるようにする。

作業（軽作業、雑貨製作）：作業を通して、日中活動の喜びを持てるようにする。

## 8 防災計画

防災計画を見直すとともに、避難訓練等を年2回実施する。

## 9 感染予防対策

感染予防対策の徹底と、衛生用品の備蓄。研修の実施や、マニュアルの整備。

## 10 開所日・利用時間

平日 9：00～16：00 休所日： 土日祝、年末年始、開所記念日

## 11 行事

健康診断（利用者・職員）、調理実習、国際交流、クリスマス会等

新型コロナウイルスの感染予防に十分留意した計画を立てる。

## 12 実習生・ボランティアの受入れ

社会福祉士実習生やボランティアを数名程度受け入れ予定。

## 13 職員研修

施設の適正な運営を図るため職員の資質の向上に努め、権利擁護、防災、感染予防、事故防止など必要な研修を実施する。

## 14 資金計画

通常の運営経費は介護給付費収入でまかなう。

**令和 3 年度**  
**グループホームわふと 事業計画書**

- 1 利用定員 4 住居 合計 26 名 (共同生活援助事業)  
住居名：「わふと」、「あみかる」、「あみかる・2」、「あみかる・3」
- 2 職員定数 管理者 1 名 (常勤・兼務)、 サービス管理責任者 2 名 (常勤・兼務)、  
世話人 8 名 (常勤・兼務 5 名、常勤・専従 1 名、非常勤・兼務 1 名、非常勤・専従 1 名)、  
生活支援員 4 名 (常勤・兼務 4 名)、  
夜間支援従事者 10 名 (常勤・兼務 9 名、非常勤・兼務 1 名)
- 3 事業運営基本計画 (方針)  
地域において共同して自立した日常生活や社会生活を営むことができるよう個々の障がい、  
身体的機能の状態に配慮した住居において、入浴、排泄及び食事等の介護、相談その他の日  
常生活上の支援を行うことを基本方針とする。
- 4 重点目標
  - ・個別支援のさらなる向上を図るため、職員の支援技術を向上する。
  - ・収入、支出の見直しを図り、グループホームの安定した運営をめざす。
  - ・権利擁護、防災、感染予防、事故防止など、利用者の安全や安心に対する取り組みを進める。
- 5 利用者への支援
  - (1) 支援内容をふまえ、本人や家族のニーズに合わせた個別支援計画の作成
  - (2) 支援計画に合わせた評価を定期的実施
  - (3) 日常生活での個別支援、個別相談
  - (4) 健康管理、通院支援
- 6 防災計画  
防災計画を見直すとともに、避難訓練等を年 2 回実施する。
- 7 感染予防対策  
感染予防対策の徹底と、衛生用品の備蓄。研修の実施や、マニュアルの整備。
- 8 開所日・利用時間  
特定の休所日や利用時間は無し。
- 9 行事  
新型コロナウイルスの感染予防対策を徹底した上で、年数回程度の行事を実施する。

## 10 職員研修

施設の適正な運営を図るため職員の資質の向上に努め、権利擁護、防災、感染予防、事故防止など必要な研修を実施する。

## 11 資金計画

通常の運営経費は利用料収入と訓練等給付費収入でまかなう。